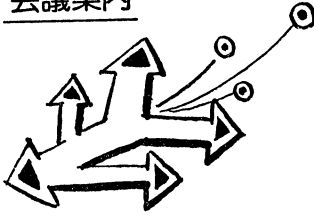


会議案内



各会議末のコードナンバーは整理番号です (*印は既掲載分)。会議の詳細を知りたい方は、学会事務局へ切手 70 円を封入のうえ、請求ください。

1. 開催期日, 2. 場所, 3. 連絡, 問合せ先, 4. その他

国際会議

PCS 84—Philippine Computer Show 84 (058)

1. March 20-24, 1984
2. Philippine Plaza Hotel
3. Call for papers (dead line November 15, 1983)
PCS 84 Papers Committee, 120 Amorsolo Street,
Legaspi Village Makati, Metro Manila, Philippines
4. Exhibits, Conf. proper, Tutorials, Software Demonstration, Film Showings, etc.

DATCOM 84—12th Int'l. Computer Communications Exhibition and Convention (059)

1. June 12-15, 1984
2. Melbourne, Australia
3. The Co-ordinating Director, DATCOM 84, PO Box 259, Roseville, Sydney, 2069, Australia

FIP 84—The First Int'l. Conference on Fuzzy Information Processing (060)

1. July 22-26, 1984
2. ハワイ, クワイ島
3. 大阪府立大学経営工学科 浅居喜代治
Tel. 0722(52)1161 (内 2376~7)
4. 日・米・欧のあいまい集合研究グループが主催し、Fuzzy 集合論に関する第 1 回国際会議。
内容は、(1)数学および基礎、(2)モデルおよびアルゴリズム、(3)応用。
論文締切り: March 1, 1984 (詳細は問合せ先へ連絡のこと)

第 4 回 生態系モデリングの現状と展望に関する国際会議 (061)

1. 1984 年 8 月 20 日~24 日
2. 国立公害研究所 (茨城県筑波郡)
3. (主催) 国際生態系モデリング学会 (ISEM)
(連絡先) 国立公害研究所水質土壌環境部
合田 健 Tel. 0298(51)6111
4. 論文アブストラクト締切り (400 語, 英文): 1983 年

12 月 15 日, 受付通知: 1984 年 1 月 31 日, 論文提出:
6 月 30 日
(参加費) 120 米ドル

国内会議

第 4 回 数理計画シンポジウム

1. 昭和 58 年 11 月 14 日(月)~15 日(火)
2. 神戸国際会議場 (神戸市ポートアイランド)
3. (主催) 数理計画シンポジウム委員会
(連絡先) 京都大学・工・数理工学教室 福島雅夫
Tel. 075(751)2111 (内 5514)
4. (特別講演: 14 日 10:00~12:00)
On Greedy Algorithms in Linear Programming
Alan J. Hoffman (Waston Res. Center)
Recent Applications of Mathematical Programming in China
桂 湘雲 (中国科学院)
(参加費) 5,000 円 (学生 3,000 円)
(懇親会) 14 日 18:00~20:00, 会費 5,000 円

第 4 回 OR セミナ「OR マンと情報処理技術者のための乱数講座」

1. 昭和 58 年 11 月 24 日(木)~25 日(金)
2. 日本アイ・ビー・エム(株)サイエンス・インスティテュートセミナールーム (東京・千代田区)
3. (社)日本オペレーションズ・リサーチ学会
Tel. 03(815)3351
4. 参加費 会員 25,000 円 (学生 15,000 円)
非会員 30,000 円, 定員 50 名

セミナー「画像処理の基礎と応用」

1. 昭和 58 年 11 月 24 日(木)~26 日(土)
2. 国民宿舎 熱海ビレッジ (熱海市梅園町)
3. (社)テレビジョン学会 Tel. 03(432)4677
4. 申込締切り: 11 月 10 日(木), 定員 80 名
参加費 (2泊3日の食費, 宿泊費を含む)
会員 43,000 円 (学生 30,000 円)
非会員 56,000 円 (学生 36,500 円)

昭和 58 年度 応用物理学学会特別公開講演会

1. 昭和 58 年 11 月 25 日(金) 13:00~16:30
2. 学習院創立百周年記念会館正堂 (東京・目白)
3. (社)応用物理学学会 Tel. 03(434)6659
4. 講演者: 関本忠弘 (日電), 石坂誠一 (野村総研), 江崎玲於奈 (IBM), 参加費 無料

エンジニアリング・シンポジウム 83

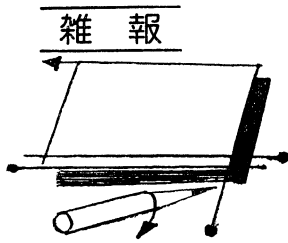
1. 昭和 58 年 11 月 28 日(月)~30 日(水)
2. サンケイ会館 (東京・大手町)
3. (主催) (財)エンジニアリング振興協会
Tel. 03(502)4411
4. 申込締切り: 10 月 21 日(金), 参加費 20,000 円
懇親パーティ 28 日 17:30~, 会費 10,000 円

第 4 回 医療情報システム展

1. 昭和 58 年 10 月 20 日(木)~22 日(土)
2. 医療情報システム開発センター「メディスルーム」他
3. (財)医療情報システム開発センター研究開発部
山田恒夫 Tel. 03(586)6321
4. 入場無料

第4回 メディカル・マイクロコンピュータ・クラブ 大会

1. 昭和58年11月13(日) 10:00~17:00
2. 全共連ビル4階 (千代田区・平河町)
3. メディカル・マイクロコンピュータ・クラブ
Tel. 03 (586) 6321 (内 53)
4. 参加費 5,000円 (予稿集代を含む)



○東京農工大学工学部教官公募

- 公募人員** 数理情報工学科第4講座 助教授1名
専門分野 画像工学, 情報機器, 情報処理等広く情報工学に関連する分野
年齢 35歳以下が望ましい
着任時期 昭和59年4月の予定
必要書類 履歴書, 研究論文リスト, 論文別刷

公募締切

昭和58年11月15日

書類送付先

〒184 小金井市中町 2-24-16
東京農工大学工学部数理情報工学科
教官選考委員会

問合せ先

東京農工大学工学部数理情報工学科
教授 高橋 延匡
Tel. 0423(81) 4221(内線 400)

○日本工学会 第45回見学会

期 日 昭和58年11月10日(木)

見学機関 科学技術庁放射線医学総合研究所

参加費 2,500円, 定員 50名

申込先 (社)日本工学会 Tel. 03(574)6176

○JIS 情報処理用語解説の発刊

このたび、ISO規格に準拠した日本工業規格の情報処理用語(JIS C 6230)についての詳細な解説書が発行されました。同書は、本学会規格委員会SC1専門委員会で、数年来審議してきた成果を集大成したものであり、情報処理用語規格を理解するのに格好の参考書です(お近くの書店でお求めください)。

定 価	5,800円 (B5判 400p)
発 刊 日	1983年9月25日
編 者	情報処理学会規格委員会 SC1 専門委員会 (主査 西野博二)
発 行 所	朝倉書店 Tel. 03 (260) 0141

情報処理学会への送金口座案内

- 会費, 購読費, 叢書代, シンポジウム・講習会
参加費等 (一般)注)

郵便振替口座 東京 5-83484

銀行振込口座 (いずれも普通預金)

第一勧銀虎ノ門支店	1013945
三菱銀行虎ノ門支店	0000608
住友銀行虎ノ門支店	10899
富士銀行虎ノ門支店	993632
三井銀行本店	4298739
三和銀行虎ノ門東京公務部	21409

- 研究会登録費

郵便振替口座 前記に同じ

銀行振込口座 第一勧銀虎ノ門支店(前記に同じ)

- 送 金 先

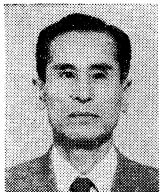
社団法人 情報処理学会 Tel. 03 (431) 2808

- 注) 全国大会参加費, 論文集予約代については, その都度参加者に特別の払込口座をお知らせします。



猪瀬 博 (正会員)

昭和2年生。昭和23年東京大学第2工学部電気工学科卒業。東京大学大学院特別研究生，同生産技術研究所研究員，東京芝浦電気(株)社員をへて，昭和30年工学博士，同31年東京大学工学部助教授，同36年教授となり現在に至る。この間東京大学教育用計算機センター長および同大型計算機センター長歴任，現在同文献情報センター長兼任。PCM統合通信，道路交通管制，コンピュータ通信などの研究に従事し，日本学士院賞，マルコニ国際学術賞などを受けた。全米科学アカデミー及びアメリカ哲学協会の外国会員，米国IEEEフェロー，本会前会長。外務省及び科学技術庁の参与。



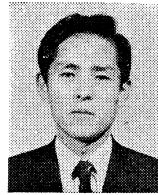
廣田憲一郎 (正会員)

大正14年生。昭和22年東京大学第一工学部電気工学科卒業。日本電信電話公社において交換機および通信網の技術開発に従事。同社総合通信網設計室長，研究開発本部副本部長，武蔵野電気通信研究所長を経て，昭和53年(財)未来工学研究所常務理事所長に就任。著書「データ伝送システム」，「明日の通信と技術」など。情報処理学会元副会長，ICCC理事，電子通信学会会員。



寺西 英機

昭和19年生。昭和42年東京大学法学部卒業。同年郵政省入省，郵政大臣官房電気通信副参事官，東北郵政局郵務部長等を経て，現在，郵政大臣官房世界コミュニケーション年対策室長。



石黒 辰雄

昭和15年生。昭和37年京都大学工学部電気工学科卒業。同年日本電気(株)入社。現在，同社C&Cシステム研究所通信研究部部长。超音波増幅，テレビ信号，ファクシミリ信号のデータ圧縮等の研究に従事。電子通信学会，テレビジョン学会各会員。



海野 陽一

昭和11年生。昭和35年3月慶応義塾大学工学部卒業。同年東京芝浦電気(株)入社。現在，東芝総合研究所企画グループ担当部長。その間，半導体レーザをはじめとするオプトエレクトロニックデバイスの研究に従事。応用物理学会，電子通信学会各会員。



高橋 貞夫

昭和12年生。昭和37年東京工業大学工学部修士課程修了。工学博士。同年東京芝浦電気(株)入社。メーザ，パラメトリック増幅器，弾性表面波デバイス，光ファイバ通信の研究に従事。現在，同社総合研究所電子部品研究所研究主幹。IEEE，電子通信学会，電気学会各会員。



望月 純夫(正会員)

昭和14年生。昭和38年東京工業大学電気工学科卒業。昭和40年3月同大学院修士課程修了。同年4月三菱電機(株)に入社。以来，一貫してオン・ライン・リアルタイム計算機システムの開発に従事している。長年，宇宙開発システムの開発を手掛けてきたが，最近は，電子ファイリング・システム等のオフィス・オートメーション・システムの開発に力を注いでいる。



飯田 登 (正会員)

昭和 22 年生。昭和 46 年早稲田大学理工学部数学科卒業。同年三菱電機(株)に入社。以来、オペレーティング・システム及びコンピュータ・ネットワーク・システムの開発に従事。近年、オフィス・オートメーション・システムの一環として電子ファインリングシステムの開発にも従事。現在、同社電子システム第二部主事。



高崎 喜孝

1938 年生。1962 年東京大学電気工学科卒業。工学博士。同年(株)日立製作所入社。現在同社中央研究所主任研究員。PCM 伝送、画像伝送および光通信の研究に従事。電子通信学会、電気学会および IEEE 各会員。



秋山 稔 (正会員)

昭和 7 年生。昭和 30 年東京大学工学部電気工学科卒業。昭和 35 年同大学院数物系研究科修了。工学博士。現在、東京大学工学部電気工学科教授。交換工学、通信網工学の教育研究に従事。著書「通信網工学」、「近代通信交換工学」、「交換工学」、「トランジスタ論理回路(訳)」、「やさしい電気通信工学(編著)」など。電子通信学会より稲田賞、岡部賞、論文賞、電気通信協会より電気通信荒川賞などを受賞。電子通信学会、テレビジョン学会、電気通信協会、IEEE 各会員。電子通信学会情報ネットワーク研究専門委員会委員長。



大久保 栄

昭和 17 年生。昭和 39 年広島大学工学部電気工学科卒業。同年日本電信公社電気通信研究所に入所。主にテレビ電話、テレビ会議、広帯域通信網の研究に従事。現在、横須賀電気通信研究所画像通信研究室に所属。電子通信学会、画像電子学会、テレビジョン学会、IEEE 各会員。



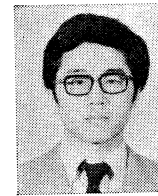
勅使河原可海 (正会員)

昭和 45 年東京工業大学制御工科学科大学院博士課程修了。工学博士。同年、日本電気(株)入社。コンピュータネットワークの研究、ネットワークアーキテクチャ、衛星パケット通信システム、回線網設計プログラム等の開発に従事。現在、電電システム事業部ネットワーク技術部課長。電子通信学会、IEEE 各会員。



難波 秀樹 (正会員)

昭和 23 年生。昭和 46 年日本大学生産工学部電気工学科卒業。同年日本電気(株)入社。ミニコンピュータの OS 開発、通信制御ソフトウェアの開発の後、ネットワークアーキテクチャの開発やその国際標準化活動に従事。現在、電電システム事業部ネットワーク技術部主任。



清水 豊 (正会員)

昭和 47 年東京大学工学部計数工学科卒業。同年、日本電気(株)入社。現在、電電システム事業部ネットワーク技術部主任。入社後、通信制御ソフトウェアの開発、DCNA 高位プロトコルの研究開発、ISO/TC 97/SC 18 等、ネットワーク関係の各種業務に従事。現在、衛星通信システムの開発に従事。



苗村 憲司 (正会員)

昭和 37 年東京大学工学部電子工学科卒業。同年日本電信電話公社入社。現在、横須賀電気通信研究所データ通信研究部統括役。情報処理学会規格委員会 (ISO/TC 97 国内委員会) SC 16 専門委員会幹事。共著「並列処理計算機」、「コンピュータネットワーク技術」など。電子通信学会、IEEE、ACM 各会員。



河岡 司 (正会員)

昭和 18 年生。昭和 41 年大阪大学工学部通信工学科卒業。昭和 43 年同大学院通信工学科修士課程修了。工学博士。同年日本電信電話公社入社。オペレーティング・システムの開発、ネットワークアーキテクチャの研究に従事。現在、横須賀電気通信研究所データ通信研究部データ通信網研究室長。電子通信学会会員。



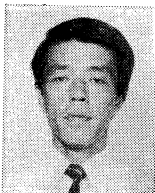
森野 和好 (正会員)

昭和 22 年生。昭和 46 年九州工業大学工学部電気工学科卒業。同年日本電信電話公社入社。以来、主としてネットワークアーキテクチャの研究・標準化に従事。現在、同社横須賀電気通信研究所研究専門調査員。電子通信学会会員。



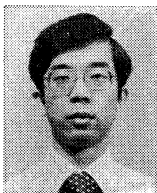
岡田 弘幸 (正会員)

昭和 19 年生。昭和 41 年京都大学工学部数理工学科卒業。同年富士通(株)入社。現在、同社情報処理事業本部企画部計画課長として、ネットワーク・アーキテクチャ、分散処理システム関連の製品計画を担当。



小出 信介

昭和 23 年生。昭和 46 年東京大学理学部地球物理学科卒業。同年富士通(株)入社。通信制御及びコンピュータネットワークの製品計画及び開発に従事。現在、FNA 及び OA・LAN 計画担当主任。



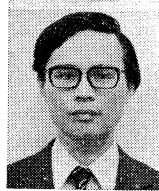
小谷野 修 (正会員)

1950 年生。1974 年東京工業大学工学部電子物理工学科卒業。同年富士通(株)入社。Mシリーズコンピュータを中心としたネットワークソフトウェア製品の開発・計画に従事。電子通信学会会員。



小野 欽司 (正会員)

昭和 14 年生。昭和 37 年東京大学理学部物理学科卒業。昭和 47 年スタンフォード大学電気工学修士課程修了。昭和 37 年国際電信電話(株)入社。現在同社研究所情報処理研究室長。衛星通信、データ通信、ファクシミリ通信の研究を特にシステムやプロトコルに重点を置き行ってきた。IEEE、電子通信学会、画像電子学会各会員、情報処理学会欧文誌編集委員、計算機システムの制御と評価研究会幹事。



浦野 義頼 (正会員)

昭和 17 年生。昭和 40 年早稲田大学理工学部電気通信学科卒業。昭和 45 年同大学院博士課程修了。工学博士。同年国際電信電話(株)入社。現在、同社研究所情報処理研究室主任研究員。この間フェイル・セーフ論理システム、パケット交換方式、ネットワーク・アーキテクチャ、通信処理、複合データベース、ビデオテックスなどの研究・開発に従事。昭和 48 年度電子通信学会米沢賞受賞、電子通信学会会員。



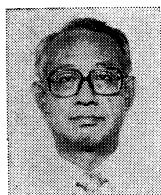
樫尾 次郎 (正会員)

昭和 15 年生。昭和 41 年京都大学大学院工学研究科修士課程修了。昭和 45 年米国ライス大学 Ph. D. 同年(株)日立製作所に入社。以来コンピュータネットワークの研究、ローカル・エリアネットワークの研究に従事。日立ネットワーク・アーキテクチャ、ならびに DCNA、さらに ISO/TC 97/SC 16 でのプロトコル仕様設定に関与。現在(株)日立製作所システム開発研究所主任技師。電子通信学会、ACM 各会員。



兵藤 剛士

昭和 18 年生。昭和 41 年東京大学工学部電気工学科卒業。同年(株)日立製作所戸塚工場入社。音声応答、データ交換等の情報通信システム的设计に従事。この間、昭和 48 年 Stanford University Electrical Engineering 修士卒業。現在、同社戸塚工場情報通信システム設計部主任技師。



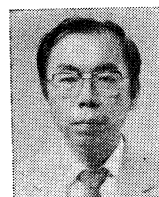
上園 忠弘

昭和8年生。昭和38年横浜国立大学経済学部卒業。昭和28年～昭和38年無線従事者として運輸省航空局に勤務。昭和38年～日本アイ・ビー・エム(株)入社。SE, 営業, 教育部門を経て, システムズ・マーケティング, コミュニケーション・システムズ担当マネジャー, 昭和51年～昭和54年データ・セキュリティ担当。現在市場調査・第三市場調査担当。著書「コンピュータ・セキュリティ」, リスク・マネジメント学会会員, 情報システム・コンサルタント(日本データ・プロセッシング協会)。



瀬谷 重信(正会員)

昭和19年生。同42年茨城大学工学部精密工学科卒業。同年日本電信電話公社入社。データ通信本部にて公衆データ通信サービスの開発に従事。現在, データベースシステムの企画・設計を担当。



西堀 齊

昭和19年生。昭和41年早稲田大学第一理工学部電気通信学科卒業。同年富士通(株)入社。以来, 交換応用システム, データ交換システム, 複合通信システムの設計, 開発を経て, 現在ローカルエリアネットワーク, 複合通信システムのSE支援に従事。システム本部システム技術統轄部第二システム技術部在籍。



大宅伊久雄(正会員)

昭和22年生。昭和44年京都大学理学部数学科卒業。同年4月沖電気工業(株)入社。NC/APT 言語の開発, 同48年より3年間イリノイ工科大学研究所(IITRI)でCAD開発に従事, その後, 形状モデリング, ワークステーション, データベースの研究開発に従事。ACM 会員。



上田 英一

昭和3年7月15日生。昭和26年一橋大学卒業。同年三井銀行入行。システム開発部長, 2次オンライン開発に従事。堀留支店長, 新橋支店長を経て, 昭和55年6月取締役同支店長委嘱。昭和56年6月事務部長を委嘱。昭和58年6月常務取締役(事務部長委嘱のまま)。趣味(クラシック音楽, 囲碁)。



太田 義久

昭和18年生。昭和37年瀬田工業高等学校卒業。同年沖電気工業(株)入社。昭和42年工学院大学電気工学科(2部)卒業。電子交換機中央処理系の開発, ミニコンピュータの開発等を手掛け, 現在, ワークステーション, ローカルネット, VLSI設計手法の研究開発に従事。電子通信学会会員。



浅野正一郎(正会員)

昭和22年生。昭和45年東京大学工学部電子工学科卒業。昭和50年同大学院博士課程修了。工学博士。現在, 東京大学工学部境界領域研究施設助教授。電子交換システム, デジタル統合通信網, ネットワークアーキテクチャ, 並びに航空管制等に関する研究に従事。電子通信学会会員。



松下 温(正会員)

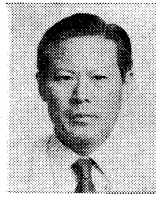
昭和14年生。昭和38年慶応義塾大学工学部電気工学科卒業。工学博士。同年4月沖電気工業(株)入社。同43年イリノイ大学大学院コンピュータサイエンス学科卒業。トンネルダイオード高速論理回路の研究, 国際テレックス交換システムの開発, ネットワークアーキテクチャの確立, DCNA 共同研究等を手掛け, 現在データベース, ローカルネット, ワークステーションの研究開発に従事。電子通信学会, ACM 各会員。

鈴木 則久(24巻4号参照)



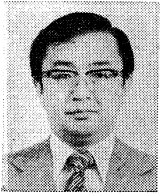
平出 賢吉

昭和 40 年名古屋大学工学部電気工学科卒業。昭和 42 年同大学院修士課程修了。工学博士。同年日本電信電話公社電気通信研究所入所。以来、TDMA 衛星通信方式及び準ミリ波デジタル伝送方式の研究を経て、移動通信方式の研究に従事。現在、横須賀電気通信研究所・研究専門調査役。電子通信学会及び米国 IEEE 各会員。



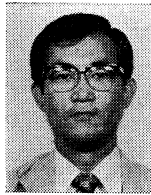
飯田 健二

昭和 9 年 11 月 15 日生。昭和 32 年東京大学工学部卒業。同年、東京芝浦電気(株)へ入社。家電機器、空調機器の研究開発、品質保証に従事。現在、家庭機器技術研究所にて、家電機器、ホームエレクトロニクス関係の研究開発に従事。日本機械学会、日本冷凍協会各会員。郵政省家庭の情報化研究会委員。



渡辺 邦夫

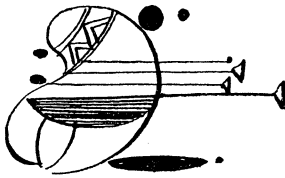
昭和 42 年慶応義塾大学工学部電気工学科卒業。同年日本電信電話公社電気通信研究所入所。以来、自動車電話方式における電波伝搬、アンテナ共用器、無線ゾーン構成・無線チャンネル配置、中小都市用自動車電話方式の研究実用化を経て、移動通信網構成の研究に従事。現在、横須賀電気通信研究所・研究専門調査役。電子通信学会及び米国 IEEE 各会員。



大川 元一

昭和 15 年生。昭和 37 年東北大学物理学部卒業。東芝テレビ事業部勤務。オーディオ機器の研究開発を経て現在ニューメディア開発担当。音響学会、AES、ASA 各会員。

研究会報告



◇ 第11回 日本文入力方式研究会

〔昭和58年7月13日(水)、於機械振興会館 地下3階2号室、出席者20名〕

(1) 日本語文章と図形を含んだ入力方式の検討

岩井 勇, 栗原 基, 菊地紀芳,
木村和広 (東芝)

〔内容梗概〕

オフィスで扱われる文書は文章だけでなく、表・図形・画像を含むものが一般的で、むしろ文章だけという文書は少ない。われわれは文章・表・図形、画像を统一的に表現できるデータ構造を考案し、それを用いたエディタを開発した。本エディタの特徴は文書を印字イメージで表示し、文字サイズを種々表示でき、図形と文字列を統一的に扱う編集操作を可能にしたことである。今回は文章だけでなく図形を含んだ場合の入力方式について報告した。

(日本文入力方式研資料 83-11)

(2) 文・音声変換技術を用いた原稿読合せ法の有効性について

壁谷喜義, 影山五良,
石川浩一郎 (横須賀通研)

〔内容梗概〕

正書法で記述された任意の日本語文章を連続音声に変換する文・音声変換技術の一応用として、ワードプロセッサで作成した文書の音声読合せ法を取り挙げ、従来の視覚による照合法と比較した操作性評価実験を行った。その結果、目視による照合法に比べ、入力誤りの修正率および修正時間において大幅な改善をはかることができた。また、各漢字に一定の音読みを与えた音声読合せ法に比べ、停止、再開等音声出力制御キーの操作回数が少なくなり疲労の軽減が期待できる。

(日本文入力方式研資料 83-11)

(3) 文字種区分方式2ストローク日本文入力法の打鍵特性

山内佐敏 (リコー)

〔内容梗概〕

タイプライタの打鍵特性についての分析例の報告はあまり多くない。その理由としてはタイプライタの違いによるバラツキ、対象文章のバラツキ、オペレータのバラツキ等による影響が複合的に現われて、なかなか一元的に扱えないことにもよると思われる。

本稿は2ストロークによる日本文入力法を開発したおり3名のオペレータを使って入力実験を行って、その内容の分析を行った。その結果、一般的な打鍵特性は二様態のワイブル分布で近似できることがわかった。また習熟過程においては文字種ごとの入力速度の順はオペレータの違いによらず同じであることがわかった。

(日本文入力方式研資料 83-11)

(4) カナタイプストにおける指の運動特性について

渡辺定久 (電総研)

〔内容梗概〕

カナ鍵盤用文字配列として広く使用されている JIS C 6233 およびそれを一部変更した配列を対象として行った入力実験の結果得られたカナタイプストの指の運動特性に関するさまざまな知見のうち、シフトキーを併用しながら入力することの入力速度に与える影響を議論し、併せて JIS C 6233 型配列の欠点とその改善策について述べた。(日本文入力方式研資料 83-11)

◇ 第36回 データベース・システム研究会

〔昭和58年7月14日(木)、於機械振興会館 地下3階2号室、出席者30名〕

(1) 検索論理における拡張汎化制約の利用

三浦孝夫 (三井造船),
有澤 博, 盛屋邦彦 (横浜国大)

〔内容梗概〕

AIS データモデルについて概念およびダイアグラム技法を導入し、汎化制約が表現(図示)できることを形式論理を用いて証明した。

この発表の主たる結果は、汎化の拡張クラスの導入とそのクラス内での健全かつ完全な公理系を示したことにある。これらは検索においてサーチスペースの減少や無効性の検出に役立つ理論的基礎を提供している。

(データベース・システム研資料 83-36)

(2) データベース論理設計におけるトランザクションモデリング

酒井博敬, 堀内 一 (日立)

〔内容梗概〕

データモデルをデータ構造部、一貫性部、および操

作部から構成されるものとみなし、一貫性部と操作部を設計するための手法を提案した。一貫性部と操作部設計のために構造部を実体関連モデルで捉え、正規化手法等により最適化した後、各実体および関連の動態 (behavior) をペトリネットによりモデル化する手法と、動態を構成する作用をトランザクションとして捉え、その正規化とトランザクション記述の手法を報告した。(データベース・システム研資料 83-36)

(3) 米国における分散データベースシステム研究開発の現状

増永良文 (図書館情報大)

[内容梗概]

著者は米国カリフォルニア州にある IBM サンホセ研究所の客員研究員として昭和 57 年 4 月より一年間、分散型関係データベース管理システム R* (アールスターと発音) のプロジェクト員として、その研究開発に従事した。本報告はこの体験を通して見聞した、米国における分散データベースシステム研究開発の現状を記したものである。

最初 SDD-1, 分散型 INGRES, システム R*, ENCOMPASS, DDTs, プライム社のシステム, Multibase, DDM がサーベイされている。次いでシステム R* の設計思想, 基本アーキテクチャ, カタログ管理体系, 分散型質問処理体系, トランザクション管理体系を解説している。

(データベース・システム研資料 83-36)

(4) 1983 年度 ACM SIGMOD 国際会議報告

上林弥彦 (京大・工)

[内容梗概]

本年度の SIGMOD は、500 名以上の参加者があり非常に活発であった。本報告は、データベース国際会議の動向、SIGMOD ビジネスミーティングの要旨、および、4 件の招待論文と 23 件の一般論文の要旨をまとめたものである。

(データベース・システム研資料 83-36)

◇ 第 25 回 コンピュータビジョン研究会

{昭和 58 年 7 月 14 日(木)、於通産省工技院機械技術研究所 第 1 会議室、出席者 45 名}

(1) 手書図面読取装置

恒川 尚, 吉野義行, 森 和宏,
岡崎彰夫 (東芝総研)

[内容梗概]

各種の手書設計図面の読取りが可能な手書図面読取

装置を開発した。多くの設計図面はシンボル、接続線、文字の 3 要素から構成されているので、これ等をトップダウンに解析し、逐次分離して認識することとした。処理の性質は、画面全体の一様処理、線に沿う線図形処理、そしてセグメント化された線分情報のテーブル処理という 3 階層構造に分けることができる。この構造に対応させた形で専用ハードウェア、プログラマブル画像プロセッサ、汎用計算機の 3 階層システムとした。手書きシーケンス図面に応用し、プログラム開発の容易性、処理効率の良否についての基礎実験を行い良好な結果を得た。

(コンピュータビジョン研資料 83-25)

(2) 分割統治法を利用した線形時間・並列画像処理アルゴリズムの設計

梅尾博司 (大阪電通大・工)

[内容梗概]

本稿では、従来から高速アルゴリズム (ノイマン型) 設計法のひとつとして知られている分割統治法 (Divide-and-Conquer Method) を、並列画像処理アルゴリズム設計に適用し、完全並列型プロセッサ [1] の一種と考えられるメモリ付きセルラーオートマトン上で、線形時間で動作する連結要素・ラベリング (通し番号付け) ・アルゴリズムを提案した。連結要素の通し番号付けは、本来逐次的な性質ゆえにその並列化が困難なものと考えられてきた。本演算に関しては、自明な面積時間アルゴリズムが知られているだけで、線形時間アルゴリズムの存在については、理論的にも興味ある未解決問題として残されていたものである。

(コンピュータビジョン研資料 83-25)

(3) 偏光情報から幾何モデルに基づいて光沢物体を認識する一手法

越川和忠, 寺師泰代, 白井良明 (電総研)

[内容梗概]

光沢物体を認識するための手法として、円偏光投光下で物体面から観測される正反射光の偏光状態を調べることにより反射点における面の法線方向を求め、これを幾何モデル GEOMAP により生成したモデルと照合することにより、対象物の種類、位置、姿勢を決定する方法を報告した。

(コンピュータビジョン研資料 83-25)

(4) ハイパスフィルタによる X 線画像画質改善

周藤安造, 梅村祥之, 加藤晴夫 (東芝)

[内容梗概]

われわれは X 線, X 線 CT など各種医用画像およ

び骨、血管、臓器などの診断部位に適した空間フィルタを設計した。これらの空間フィルタはフィルタリング条件などが容易に設定できる汎用的な画像処理ソフトウェア開発ツールによって開発され、かつその効果がシミュレーションによって評価される。

なお、本報告では、フィルタリングモデルをハイパス型に限定し、対象とする医用画像もX線画像およびX線CT画像としている。

(コンピュータビジョン研資料 83-25)

(5) 図形のエントロピ (相関エントロピ)

福井郁生, 中村達也 (機械技研)

[内容梗概]

図形の自己相関関数は、図形の空間(軸)方向の平均情報量を表わしている。これを確率関数と考え、エントロピの定義にあてはめる。これを相関エントロピと名づける。さらに図形のひろがりを表わす標準偏差を採用する。相関エントロピと標準偏差による2次元表示を画像評価関数といい、これにより図形は線分パターン、線画パターン、面(濃度)パターンの三つに分類できる。線画パターンとその面画パターン(内部をぬりつぶしたもの)の相関エントロピはほとんど等しく、また、画像情報がいかなる系を通過しても、評価関数値は減少しないことを証明している。例として、ランダム・パターンと周期状パターンの評価関数値を示した。(コンピュータビジョン研資料 83-25)

◇ 第38回 自然言語処理研究会

{昭和58年7月15日(金)、於機械振興会館 地下3階2号室、出席者100名}

(1) 自然言語および図形理解のための形容詞の概念の分類—単純概念の場合

岡田直之 (大分大・工)

[内容梗概]

自然言語および図形の理解を目的として、次の観点から形容詞や形容動詞で表わされる属性概念の系の組織的な解明に取り組んでいる：(1)属性概念を2つの対象の間の“差”に関する概念と見なす。(2)概念形成過程を背景にして属性概念を要素的な“単純概念”と要素的な概念から導ける“非単純概念”とに分ける。(3)単純概念については物理的あるいは心理的対象との対応を、又非単純概念については要素的属性概念の間の結合関係を明確にする。本稿では、特に形容詞で表わされる単純概念について議論を行っている。

(自然言語処理研資料 83-38)

(2) 科技厅機械翻訳プロジェクトの概要

長尾 真 (京大・工)

[内容梗概]

昭和57年度より3年間の予定で、「日英科学技術文献の速報システムに関する研究」が政府の科学技術振興調整費で行われることになった。本報告はそのプロジェクトの概要を説明したものである。研究組織と目標を明らかにし、過去1年の間に行われた研究内容を説明した。特にここで作成している翻訳方式の特徴がどこにあるかについて詳しく説明した。LISPを用いること、意味を重視した格文法を中心に、かなり深い解析を行うこと、言語のもつ特徴である個々の言語現象を十分にシステムに組み込むことができる工夫がしてあること等が特徴である。

(自然言語処理研資料 83-38)

(3) 日本語形態素解析の基本設計

坂本義行 (電総研)

[内容梗概]

本研究は、日英機械翻訳システムにおける科学技術文献を対象とした日本語文の形態素解析を行い、分析結果として、日本語構文解析等に必要情報を辞書システムより検索し、出力することを目的としている。解析は、辞書駆動型による文字列間の接続関係を文の左端からチェックし、文を単位として、可能な解をすべて出力する Multiple-path 方式をとっている。本稿では、サンプル文として JICST 文献抄録文について実験を行っている。そこに出現した文の表現形式を細部にわたり分析し、実用的な解析システムを構築するプロセスの開発をめざしている。

(自然言語処理研資料 83-38)

(4) 文法記述用ソフトウェア GRADE

中村順一 (京大・工)

[内容梗概]

主として機械翻訳システムのために開発した、自然言語処理のための文法記述用ソフトウェア GRADE (GRAMMAR DESCRIBER) について報告した。GRADE には、(1)部分文法の考え方をういて文法を記述する。(2)パターン・マッチングに基づく木構造の変換規則により個々の文法規則を記述する。(3)辞書中にも文法規則が記述できる。(4)形態素処理を除く翻訳のすべての過程を同一の枠組で記述できる。(5)人間にとって書き易く、読み易い記述形式を用いる、という特長がある。これらについて、他の方法と比較しながら報告した。(自然言語処理研資料 83-38)

(5) 日本語構文解析

辻井潤一 (京大・工)

[内容梗概]

本研究は、日英機械翻訳システムにおける科学技術文献を対象とした日本語構文解析手法について報告している。機械翻訳システムは、従来の自然言語理解システムが対象としていた分野に比べると、はるかに広範囲の分野を対象としなければならない。このための手法としては、あまりに強く意味や知識に依存せず、これらが、充実すればそれだけ翻訳の質が向上するという、発展的な手法でなければならない。本稿は、文法記述用語 GRADE の各特徴が、この種のシステムを開発していく上で、いかに効果的に使用できるかを、並列名詞句・連用中止法・名詞句・連体形埋込み文等の構文解析の主要ステップでの処理を説明してゆくなかで概説した。(自然言語処理研資料 83-38)

(6) 変換処理過程の基本設計

西田豊明 (京大・工)

[内容梗概]

本稿では、日英機械翻訳システムの変換・生成過程の基本的な処理方式について述べた。変換過程では依存格構造を中間構造として用いて、日本語の依存格構造から英語の依存格構造への変換を行う。本方式の特徴は次のようである：①意味的に深いレベルの中間表現の使用により、言語の表層的な性質にとらわれない処理ができる。②システム作成とデバッグを容易にするため、変換過程を小さきみなステップに分けた。③訳語選択・構造変換はシステムで標準的に用意した文法以外に単語ごとに定義されたサブグラマによっても行うことができ、柔軟性のある処理ができる。

変換・生成処理は文法記述用語 GRADE を使って記述する。「なる」、「行う」などの特殊な語の変換規則は GRADE を使って直接記述するが、そうでない語については固定フォーマットで変換規則を与える。(自然言語処理研資料 83-38)

(7) 語の収集と体言を中心とする辞書について

中井 浩, 佐藤雅之 (JICST)

[内容梗概]

科学技術文献の翻訳を対象とする場合には、専門用語等の名詞を主体とする体言辞書の果たす役割は大きい。体言辞書作成の際の一般的な問題として、①語の収集の範囲・選択基準、②短縮語・複合語の語単位、③対訳付けがある。

本稿では、上記の3点に言及し、実データをもとに

分析を行い、設定した意味マーカ・品詞細分類等の辞書情報と、その付与のための作業フォーマットについて説明した。さらに、サンプル文を選定し、それらに辞書情報を付与した時の問題点について述べた。

(自然言語処理研資料 83-38)

(8) 格構造を中心とした用言と付属語辞書

坂本義行 (電総研)

[内容梗概]

本研究は、機械翻訳システムにおける日本語の形態素解析、構文解析に必要な辞書システムの開発を目的としている。翻訳の対象として、JICST の文献抄録電気編 1,000 文を用い、その出現単語について詳細な分析を行い、動詞、形容詞、形容動詞辞書の記述形式を決定した。特に翻訳における構文解析の中心をなす格フレームを設定した。実例から各動詞とその表層格、それが示す深層格および名詞の意味コードとの関係を調査し、用言と付属語の辞書台帳を作成した。翻訳のための辞書引きソフトウェアの基本部分の設計と開発をすすめている。(自然言語処理研資料 83-38)

(9) 機械翻訳総合システムの基本設計

矢田光治 (電総研), 長尾 真 (京大・工)

[内容梗概]

日英科学技術文献の速報システムにおける翻訳プログラムや翻訳辞書を、有機的に結合して実用するための機械翻訳作業環境を、総合システムとして設計したので報告した。これは応用分野をいくつか想定し、前編集、後編集、メニュー方式などを採用している。

たとえば、文献検索における機械翻訳の活用や、文書作成における高度利用である。機械翻訳作業システムのハードウェアは、大型計算機、ミニコン、パソコンにおいても実施できるように設計した。また、ビットマップディスプレイを活用し、マルチウィンドウやイメージ辞書の取り扱いについても考慮した。各ユーザごとの個別辞書の作成を可能にし、階層構造をとった。(自然言語処理研資料 83-38)

◇ 第 19 回 分散処理システム研究会

{昭和 58 年 7 月 21 日(木), 於商業界会館 2 階大会議室, 出席者 15 名}

(1) 分散型グラフィックスシステム

大金頭二, 田中英彦, 元岡 達 (東大・工)

[内容梗概]

分散型グラフィックスシステムの概念と実験システムについて述べた。分散型グラフィックスシステム

は、ホスト計算機、ローカル計算機、グラフィックス装置から成り、応用プログラムがホストとローカルに分散して、効率的にグラフィックス処理を行う。実験システムでは、ローカルにコアシステム準拠の MT-CORE を実装し、ホストに3次元処理を行うライブラプログラムの 3D-PKG を実装して、分散型グラフィックスシステムの構成について検討した。

(分散処理システム研資料 83-19)

(2) スロットを用いたループネットにおけるノード間相互依存性について

照屋 健 (琉球大),
白鳥則郎, 野口正一 (東北大)

[内容梗概]

スロットを用いたループネットにおけるシステム・パフォーマンスはノードにおけるパケットの宛先分配率、ノード数、ノードにおけるパケットの棄却率等に影響される。本稿ではパケットがバッファ内に間断なくジョブとしてあるフルロードの場合とパケットの到着率が指数分布をなす場合の二つのケースについて考察した。フルロードの場合はマルコフ連鎖にもとづく遷移確率行列をもとにして、スループットを宛先分配率、ノード数をパラメータとして理論的に導いた。

指数到着の場合では計算機シミュレーションによってバッファサイズが無限大と有限のケースについてシステム・パフォーマンスのノード間相互依存性を明らかにした。
(分散処理システム研資料 83-19)

(3) DCNA におけるエンドツーエンドのデータ転送方式

森野和好 (横須賀通研), 田部幹雄 (日電),
佐藤 健 (日立), 武田浩一 (富士通),
井出政司 (沖電気)

[内容梗概]

データ通信網アーキテクチャ (DCNA) では、個々の通信網 (パケット交換網, 回線交換網, 電話網, 専用線等) の特性を最大限に利用するために、開放型システム間相互接続 (OSI) のネットワーク層対応の機能を拡張した。また、OSI トラnsポートプロトコルに基づいて、ネットワーク層から得られるサービスの品質に対応したエンドツーエンドのデータ転送機能を拡張した。本稿では、上述の目的に合うネットワーク層の構造を検討するとともに、DCNA での機能拡張の考え方や拡張機能の概要を述べた。

(分散処理システム研資料 83-19)

(4) OSI 参照モデルにおけるトランスポート、

セッション・レーヤ・プロトコルについて

鈴木健二, 浦野義頼, 小野欽司 (KDD 研究所)

[内容梗概]

OSI 参照モデルにおけるトランスポート、セッション・レーヤの標準化作業は、ISO と CCITT による密接な共同作業により、ほぼ確定したサービス定義、プロトコル仕様を得るに至っている。本稿では、ISO, CCITT におけるトランスポート、セッション・レーヤの標準化動向およびそのサービス定義、プロトコル仕様の概要を報告した。

(分散処理システム研資料 83-19)

(5) 階層化プロトコルを実現するプログラムの検証論理の生成法

荒木哲郎, 高田賢次, 吉武静雄 (横須賀通研)

[内容梗概]

プロトコルをインプリメントした製品が、標準プロトコルに準拠していることを網羅的に検証する際に必要となる検証シーケンスを、実際の検証システム上で実現する方法を述べている。特に、プロトコルエラーに関する検証を行うために必要な検証論理を体系的に求める手順を、双対オートマトンの概念に基づいて示した。

本論文では次の事が示されている。

(i) プロトコル製品を網羅的に検証できるのは、検証システムが双対オートマトンを実現するときである。(ii) 双対オートマトンに基づいて、検証シーケンスを求め、それらを検証システム上で実現する手順を示し、更に本手順の適用性を検証実験によって確認した。
(分散処理システム研資料 83-19)

(6) 会話形式による通信プロトコル検証システム 覚莖高音, 石坂充弘 (三菱電機)

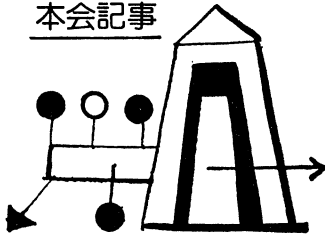
[内容梗概]

データ通信システム開発における通信プロトコルの設計を、計算機により効率的に支援することができる通信プロトコル検証システム PVS-I を開発した。

PVS-I では、通信プロトコル設計者が会話的に検証シミュレーションの実行を制御することができ、誤りを初期設計段階で早期に見発および修正することが可能である。また、PVS-I は設計者の指示により伝送路における送信信号の紛失を自動的に模擬し、その時の通信プロトコル状態遷移を検証する機能や、シミュレーションの高速化を計るため重複する状態遷移列の実行を縮退する機能を有している。

(分散処理システム研資料 83-19)

本会記事



第 269 回 理事会

日 時 昭和 58 年 7 月 21 日 (木) 18 : 00 ~ 21 : 00
 会 場 機械振興会館 5 階 5S-1 号室
 出席者 坂井会長, 萩原, 三浦各副会長, 池野,
 小林, 辻ヶ堂, 永井, 明午各常務理事, 高月
 田中, 青山, 鈴木, 反町, 高村, 寺田,
 永井, 松本, 渡部各理事, 藤中, 山本各監事
 (委任状による出席) 石田常務理事, 当麻理事
 (オブザーバ) 元岡教授 (東大)
 (事務局) 坂元事務局長, 桜間, 田原各次長
 議 事

1. 総務関係 (石田常務理事, 渡部理事)

1.1 昭和 58 年 6 月期に理事会・編集委員会 12 回,
 研究会 13 回, 講演会・シンポジウム 4 回, 規格
 関係 24 回, 計 53 回の会合を開いた。

1.2 昭和 58 年 7 月 18 日 (現在) の会員状況

(1) 新規入会および退会

正 会 員	入 会	278 名	退 会	31 名
学 生 会 員	入 会	98 名	退 会	2 名
購 読 員	入 会	14 名		

(2) 7 月 18 日 (現在) の会員状況

正 会 員	17,741 名
学 生 会 員	727 名
賛 助 会 員	266 社 (380 口)
購 読 員	70 名

1.3 電子通信・情報処理両学会懇談会について

去る 7 月 18 日 (月) に両学会役員, 幹事の懇
 談会が開かれ, 両学会共通の関心事, 例えば部会
 (Society), 研究会の共催, 生涯教育などにつき懇
 談し, 具体的問題にしほり, 12 月中旬に再度懇談
 会を開くこととなった。

1.4 総会で承認可決された「海外会員」についての
 定款の改訂が, 去る 6 月 27 日に文部省から認可
 されたので, ACM 側とさらに話を詰めることと
 した。

1.5 電子計算機ユーザ調査年報の編集の現況を確
 認のうえ, 検討することとした。

2. 機関誌関係

2.1 会誌編集委員会 (小林常務理事, 高月, 寺田,
 永井各理事)

第 69 回会誌編集委員会議事録により 24 巻 8 号
 以降 10 号までの編集を順調にすすめている旨報
 告があり, 了承された。

2.2 論文誌編集委員会 (池野常務理事, 反町理事)

第 65 回論文誌編集委員会報告により, 「24 巻 5
 号 (9 月) の編集を終えた。投稿が増加したので,
 160 ページの見込みである」旨報告があり, 了承
 された。またその他, 査読方法の改善, 投稿規程
 の見なおしなども前回に引続き検討中の旨, あわ
 せて説明があった。

2.3 機関誌編集理事会

去る 7 月 20 日 (水) に, 機関誌編集担当理事に
 よる本年度第 1 回の編集理事会を開き, 会誌, 論
 文誌, 欧文誌の 3 誌にわたる共通事項につき懇談
 のうえ, 相互に理解を深めた。その中で主要な話
 題は次のとおりであった。

(1) 昨年 10 月に行った会誌に対するアンケート
 の結果を尊重し, 商業誌では満たされない
 解説を充実するように努めること。

(2) 3 機関誌の安定確実な発行を保障する事務
 局体制を強化すること。

3. 事業関係 (辻ヶ堂常務理事, 田中理事, 鈴木理事)

3.1 第 27 回全国大会 (10 月 18 日 ~ 20 日, 於名古屋
 大学) の全プログラムが決定した旨報告があり,
 了承された。

3.2 日本グラフィックデザイナー協会主催の
 「JAGDA シンポジウム 1983—コンピュータ・グ
 ラフィックスによる表現の世界」の協賛依頼を了
 承した。

4. 調査研究関係 (永井常務理事, 松本理事)

調査研究運営委員会の審議内容および検討事項に
 つき次のとおり説明があり, 了承された。

4.1 第 41 回調査研究運営委員会報告

去る 6 月 28 日 (火) に開催し, 本年度の研究会
 が滞りなく行われつつあることを確認した。また,
 シンポジウム, 国際会議開催希望が出された。

4.2 第 42 回調査研究運営委員会 (2 号委員は含ま
 ず) で, かねてより懸案になっている ①規程の改
 訂 ②1 号委員の業務の明確化 ③研究会への非会

員の参加 ④研究会地方開催補助費の増額などにつき検討した。

4.3 上記委員会の決定にもとづく提案

- ①調査研究に関する規程改訂(案)
- ②1号委員(学識経験者)の業務規定
- ③非会員の研究発表会聴講
- ④研究発表会地方開催補助費増額
- ⑤「研究会活動の手引」の起草

5. 国際関係(明午常務理事, 青山理事)

5.1 第7回 CHDL (Computer Hardware Description Languages and their Applications) 国際会議の概要につき, 元岡準備委員長から説明があった。共催ならびに資金貸与については了承されたが, 募金については, 今後この種国際会議のひとつの基準になるので, 慎重に取り扱うこととなった。

5.2 ICTP 83 (1983 Int'l. Conf. on Text Processing with a Large Character Set) のプログラム兼申込書により, 元岡組織委員長から同国際会議への参加協力があつた。

6. その他

6.1 去る7月11日(月)に日本学術会議で開催された学協会との懇談会につき報告があつた。選挙法改正問題のため選挙期間が短くなったので, 学会誌にその旨掲載することとなった。

6.2 次回理事会 9月14日(水) 17:30~

機関誌編集委員会

○第71回 会誌編集委員会

58年9月8日(木) 18:00~20:00 に機械振興会館 B3-2号室で開いた。

- (出席者) 小林常務理事, 寺田, 永井各理事
 (FWG) 富田, 小山各委員
 (SWG) 魚田, 川合, 疋田, 山田各委員
 (HWG) 日比野, 三浦, 島田, 南谷, 東田, 今井, 鈴木, 大森, 松下(村井 代) 各委員
 (AWG) 木下, 四条, 河津, 松下各委員

議 事

1. 会誌24巻10号, 11号, 12号および25巻1号の目次(案)により, 各号の編集進捗状況を確認した。

- (1) 24巻10号(大特集号)
 論文24編, 184~188ページで順調にすすんでいる。

(2) 25巻1号(普通号)

(i) 各WGからの解説原稿の脱稿の促進をはかる。

(ii) 著作権問題の検討がそのままになっているので, 次回の本委員会に, 参考資料の提出をえて検討する。

2. 各WGから解説, 講座等管理表により, 原稿の進行状況につき説明があり, 了承された。

3. 特集号の目次(案)を検討し, 次のように決定した。

(1) (SWG) 特集: Prolog (1984年12月号)

(2) (AWG) 特集: 生体と情報処理 (1985年2月号)

(3) (HGW) 特集: ネットワーク・アーキテクチャの標準化動向 (1985年4月号)

4. 次回予定 58年10月13日(木) 17:30~

○第66回 論文誌編集委員会

58年9月13日(火) 17:30~20:50 に機械振興会館6階69号室で開いた。

(出席者) 池野常務理事, 反町理事, 川合, 所, 野下, 牧之内, 真名垣, 溝口, 渡辺各委員

議 事

1. Vol. 24, No. 6 および Vol. 25, No. 1 の目次を確認した。また投稿原稿が著しく増加したので, 月刊化について理事会に諮ることとした。

2. 投稿論文処理状況

	投稿	採録	不採録
当月(58/9)	16	24	8

3. 懸案の査読方法については, 今までの審議結果をまとめ, 次回さらに検討することとした。

4. 執筆案内見直しを次回さらに検討することとした。

○第56回 欧文誌編集委員会

58年9月9日(金) 17:30~20:15 に機械振興会館6階61号室で開いた。

(出席者) 当麻委員長, 高村副委員長, 大須賀, 小野, 金子, 亀田, 志村, 土居, 藤村, 益田, 米澤, 和田各委員

議 事

1. 投稿論文の査読状況について, 配布資料により説明があつた。

2. Vol. 6, No. 3 は論文6件, 本文40~42ページで10月末発行予定。

3. 前回の委員会以降, 査読結果を委員会で確認することとした。したがって, 当分毎月委員会を開催することとした。

各種委員会 (1983年8月21日～9月20日)

- 8月31日(水) ソフトウェア工学研究会・連絡会
- 9月5日(月) TC 2 小委員会
- 9月6日(火) VLSI 85
- 9月12日(月) データベースシンポジウム打合せ
- 9月13日(火) ICTP 83, LAN シンポ打合せ
- 9月14日(水) 25周年記念事業準備委員会
全国大会運営委員会
- 9月16日(金) 自然言語処理研究会
- 9月20日(火) 設計自動化研究会

【規格関係委員会】

- 8月23日(火) SC 6/WG 3, SC 16/WG 5
- 8月24日(水) SC 6/WG 1, SC 18/WG 3・5
- 8月25日(木) SC 11, SC 11/FD-WG
- 8月29日(月) SC 15
- 8月30日(火) OSI JIS/WG
- 8月31日(水) SC 9, NC 用言語 JIS/WG
- 9月1日(木) SC 6, SC 16/WG 5
- 9月2日(金) 符号 JIS
- 9月6日(火) SC 16/WG 6
- 9月8日(木) SC 7, SC 16/WG 1, SC 16/WG 4
- 9月9日(金) SC 18/WG 2
- 9月13日(火) SC 2, OSI JIS
- 9月14日(水) SC 15, SC 16
- 9月16日(金) マルチリンク手順 JIS
- 9月19日(月) SC 1, SC 5, SC 5/PL/IWG
- 9月20日(火) 符号 JIS/WG 2

新 規 入 会 者

昭和58年9月の理事会で入会を承認された方々は次のとおりです(会員番号, 敬称略)。

【正会員】高橋 寛, 仲村明彦, 松林 茂, 山口正博, 安里 彰, 麻野秀秋, 芦沢真里子, 稲葉 隆, 井上和彦, 井上二郎, 井上仁郎, 今井 洋, 上野一郎, 鶴沢邦彦, 内戸保俊美, 宇野ゆかり, 大通孝志, 岡本敏雄, 奥田美鈴, 小野信任, 柏木正彦, 嘉手川繁三, 金谷憲二, 金田恒雄, 釜 三夫, 神長裕明, 川上博美, 川戸秀郎, 工藤雅安, 久津間正勝, 熊切 彰, 小出昭夫, 小島志郎, 小林勝哉, 小林 亨, 昆 祐浩, 佐伯 猛, 榊山幸晃, 先間直樹, 佐瀬幸男, 佐藤徳男, 里見先雄, 鱈目正志, 実末恵一, 島田一男, 正野博視, 杉本大輔, 鈴木伸吾, 鈴木 力, 清野克行, 高

桐尊史, 高久芳行, 高野 聡, 高橋靖昌, 立川篤夫, 田中 勲, 田中晴彦, 玉本英夫, 土屋雅一, 鳥生隆, 永井雅博, 中尾郁生, 永田慎二, 仁科義浩, 野村則義, 橋本直樹, 服部浩子, 播木伸幸, 東上床哲雄, 疋田英俊志, 平尾泰良, 平谷雅代, 船坂誠市, 藤田敏正, 堀 一男, 松原俊寛, 宮井正弥, 宮田美香, 森俊昭, 盛田耕作, 森山あゆみ, 諸我勝己, 柳田伸二, 山口正雄, 山口有三, 山本博史, 芳井 晶, 渡部敏, 渡辺美保, 渡辺洋右, 菊池純男, 植松幸雄, 荘司公克, 灘岡 満, 飯田博一, 小松和明, 坂上雅久, 邊保 久, 山本一郎, 横関 敦, 伊藤 隆, 川井健一, 川原 徹, 道白義雄, 中川 達, 西野 均, 九萬原敏己, 井岡幹博, 金井 敦, 神田英貞, 神宮 正, TSENG, SAMUEL, 手塚 集, 橋本邦明, 柗木信一郎, 浅原弘光, 今井伸彦, 印出哲久, 上村松男, 逢坂和明, 大島安一, 大田 裕, 大西和彦, 大西二郎, 岡田昌之, 織田昌知, 柿沼浩善, 鹿嶋孝弘, 粕谷 淳, 加藤恒昭, 金子直良, 川上輝之, 菅野聖子, 菅野喜晴, 北村 聡, 北村 力, 日下浩次, 國井秀子, 久保田哲也, 小町祐史, 佐藤雅人, 塩川正二, 芝野耕司, 下川勝千, 城野俊彦, 高木 朗, 高瀬明宏, 高浪五男, 田口 潤, 竹田太四郎, 武田秀康, 田所三生, 寺西健二, 富田 茂, 中内俊一郎, 中嶋信義, 難波秀彰, 西岡健自, 野口義雄, 野村豊昭, 馬場 俊, 久野義家, 平岡栄一, 堀 雅文, 松尾谷徹, 箕田 稔, 毛利尚武, 森 雄児, 矢具島一生, 矢吹博行, 山口忠男, 脇田修躬, 山守成樹, 田中俊治, 吉岡正彦, 筒井茂美, 堀田多加志, 杉本則彦, 吉岡 誠, 石田篤範, 伊藤文英, 白土俊宏, 竹之内茂雄, 石江浩一, 石川正二, 遠藤達也, 木坂正志, 小林正樹, 高橋啓志, 竹下 輝, 戸張 敦, 中村 孝, 南家光一郎, 新倉忠隆, 沼田 勉。(以上195名)

【学生会員】竹澤寿幸, 武田和昭, 永井保夫, 間野一則, 青山圭介, 安達範明, 磯田道男, 岡部宣夫, 岡村修司, 金子誠司, 久保田紀彦, 倉上典之, 小松秀昭, 首藤 薫, 竹谷 浩, 長瀬敏之, 野美山浩, 松尾啓志, 宮内 宏, 宮武明義, 村井 新, 築場厚志, 小池 淳, 池田 満, 稲川正行, 岩崎孝夫, 鈴木 正, 鈴木光教, 土井日輝, 綾目省吾, 加瀬理香, 川副博, 北川和裕, 小林哲雄, 近藤明男, 樽本尚明, 中村修, 日並順二, 平野真司, 村山正之, 尹 志熙, 横山彰, 横山清子, 吉川忠昭, 熊沢忠志, 唐 培雄。(以上46名)